

# 35 保健指導科だより

発行日 平成23年2月3日 〒400-8506 甲府市富士見1丁目1-1  
山梨県立中央病院 地域医療連携部保健指導科 TEL055-253-7111 内線1232

## 2010年7月より糖尿病の診断基準が11年ぶりに改訂

今回は、この話題についてお伝えします。

### なぜ改訂しなければならなかったのか

糖尿病の診断においては、慢性的に高血糖状態が続いているか否かが重要なポイントです。その点において、過去1~2ヶ月間の平均血糖値を反映するHbA1cは適切であるとされたのが大きな理由です。また、HbA1cが基準に加わることによって、空腹時血糖値が110mg/dl未満でも食後高血糖になる人の中に、糖尿病を見つけられるようになりました。このことで、糖尿病や合併症になる人数が減少することが期待されています。

### 以前の診断基準との大きな違い

それは、HbA1cの値が糖尿病診断基準の第一段階に取り入れられたことです。つまり、1回目の採血で血糖値とHbA1cがともに糖尿病型だった場合、その時点で糖尿病と診断されます。これにより、早期診断・早期治療の流れが促進されるよう期待されています。

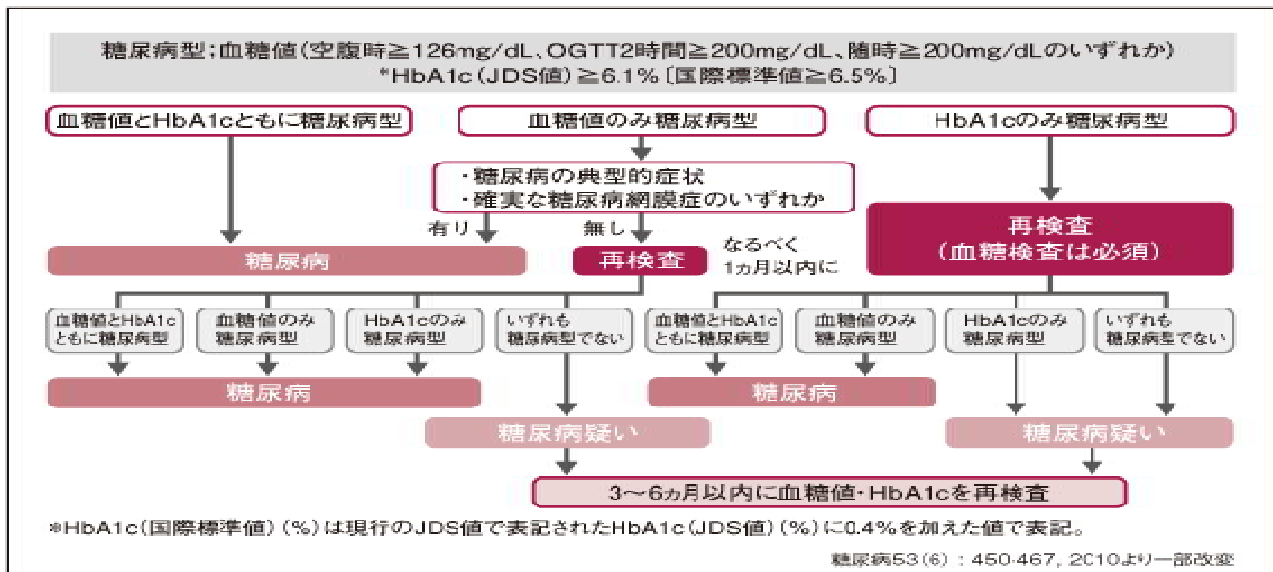
以前の基準では

- 早朝空腹時の血糖値が126mg/dl以上
- 75g経口ブドウ糖負荷試験の2時間値が200mg/dl以上
- 随時血糖値200mg/dl以上

のいずれか(血糖値の糖尿病型)が、別の日に行った検査で2回以上確認された場合、または~のいずれかと典型的な糖尿病の症状(口渴、多飲、多尿、体重減少など)がある場合、糖尿病と診断されていました。また、同時に測定したHbA1cの値は、JDS値6.5%以上の場合、糖尿病と診断して良いという補助的な扱いといえました。



### 糖尿病の臨床診断のフローチャート



### 日本に導入するにあたって

日本の糖尿病診断基準はアメリカ糖尿病協会(ADA)や、ヨーロッパ糖尿病学会(EASD)、国際糖尿病連合(IDF)といった国際学術団体の勧告に基づいています。しかし、欧米人と日本人では人種や体格の違いがあります。そのため、その勧告をそのまま導入することは出来ず、日本人に見合ったものにアレンジする必要があります。そこで、日本人のデータを収集し、検討して得られた数値(JDS値)を利用しています。

### 日本のHbA1c値と欧米のHbA1c値

実は現在日本で使用されているHbA1c値は欧米でのHbA1c値とは異なります。それは検査方法の違いによるもので、日本独自のHbA1c(JDS)値は、欧米でのHbA1c(NGSP)値よりもおよそ0.4%低い値となっています。これでは、そもそも同じ基準値を使えません。そこで、この診断基準改定の機会に日本のHbA1c(JDS)値は欧米を中心に世界的に普及しているHbA1c(NGSP)値にあわせることになりました。今後、従来の日本の値に0.4%を加えた値を使用することになります。ただ、同時期に診断基準もHbA1c値も変更になると大きな混乱を招くため、しばらくは今までどおり、HbA1c(JDS)値と表記し、日を改めて変更することになっています。